

**令和元年第9回庄原市教育委員会議
令和2年度使用小学校用教科用図書採択 議事録**

- 1 日 時 令和元年8月20日(火) 午後2時13分から
午後4時05分閉会
- 2 場 所 庄原市役所 本庁舎5階 第2委員会室
- 3 出席委員 教 育 長 牧原 明人
教育委員 末信 丈夫、横山 和明、神本 久美、立花 有佐
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席職員 教育部長 片山祐子
教育部教育総務課長 莊川隆則
教育部教育指導課長 東直美
教育部生涯学習課長 花田譲二
教育部教育総務課総務係長 亀山慎也
教育部教育指導課学事係長 岡崎敏朗

6 議事録（概要）

	<p>日程第 5、議案第 43 号、令和 2 年度使用小学校教科用図書の採択について</p>
教育長	<p>ただ今から会議を非公開とする。後日議事録を公開することについてお諮りする。よろしいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、日程第 5、議案第 43 号、「令和 2 年度使用小学校教科用図書の採択について」事務局より議案の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>議案第 43 号、「令和 2 年度使用小学校教科用図書の採択について」関係法及び関係規則に基づき、教育委員会の決定を求めるものである。「小学校用教科用図書採択に係る調査研究答申」の各教科の総合所見の欄を読んで提案する。</p> <p>まず、国語の総合所見である。単元の導入ページに単元で身に付けるべき力が示されている。「単元の問い」を示し、「問い」を解決することで学びを深める工夫がある。また、書くこと、入門期の領域のページ数が多く、基礎・基本をしっかりと身に付けることができる。さらに、たくさんのグラフ、表などが提示されており、論理的思考力を育成する上で効果的である。教材との関連本や推薦本の冊数は全学年で 459 冊と 4 者の中で最も多く、読書意欲の向上や学校図書館との関連も期待できる。以上の理由から、総合的に判断して、「東京書籍」が最も適している。審議をお願いします。</p>
教育長	<p>ただいま事務局から、選定委員会における答申を踏まえた提案があった。これについて、質問、意見があればお願いします。</p>
神本委員	<p>「東京書籍」の単元の導入「言葉の力」のコーナーで、身に付けるべき力と具体的な目標を示している点はとても素晴らしいと感じた。</p>
立花委員	<p>「東京書籍」の教材に関連する本の冊数が多いことや内容がしっかりとした本が選書されている点は評価できる。</p>
末信委員	<p>各発行者の趣意書の中の編集の観点というところをしっかりと読んだが、先程、神本委員が触れた、「東京書籍」が「言葉の力」を大きなポイントとして展開していること、ねらいや振り返りにも関連させていることは素晴らしいと思う。</p>
教育長	<p>「東京書籍」ばかりの意見が出ているが、その他ないか。</p>
末信委員	<p>4 者に共通してある教材、例えば「ごんぎつね」の挿絵に着目した。中には、多少漫画っぽいものや、その場の雰囲気がよく伝わるものがあった。最後の場面で、ごんぎつねが火縄銃で撃たれる、火縄銃から青い煙がフワーッと出る場面があるのだが、その挿絵に煙がない教科書があった。児童にとって、挿絵は重要であると思う。そういう観点から見ても、「東京書籍」はよい雰囲気であった。</p>
教育長	<p>その他どうか。</p>
横山委員	<p>「光村図書」は学習の手引きが充実していた。丁寧な導きがあると感じた。</p>
教育長	<p>教材について、前回の採択においても比較したが、文学、説明文とも各者学びたいものをいろいろ選定していると感じた。「東京書籍」は、「つかむ」「取り組む」「振り返る」という学習過程が明示してある。また、「単元の問い」や伝え合う内容などの工夫があり、言葉の力を付けるという点に力を入れている。とりわけ、第 1 学年の導入</p>

	<p>教材「とんとん」は入門期の児童が興味・関心をもち、教材の世界に非常に入りやすいと感じた。また、関連図書も充実していた。「光村図書」は「とらえる」「深める」「まとめる」「広げる」という分かりやすい学習過程を示している。また、心を揺さぶらせるようなよい教材が集められていた。「教育出版」も学習過程を「確かめよう」「考えよう」「深めよう」「広げよう」と設定している。「学校図書」も、付けたい力を意識した構成になっており、学習の手引きには学習の流れがきちんと示してある。ローマ字の扱いについて比較すると、ほとんど同じであった。私も「東京書籍」が、先程のような理由でよいと思っている。しかし、狂言などの伝統的な教材の扱いについては、「光村図書」や「教育出版」の方が充実している。「東京書籍」の教科書には日本伝統芸能については紹介されていたので、そういったことでカバーする必要があると感じた。もう一つ、「東京書籍」の特徴として、第1学年の教科書に横書きの小さい「つ」というのが書いてあった（いわゆる撥音の扱い）のは「東京書籍」だけであった。医者（いしゃ）の小さい「や」も同様であった。小さい字（撥音）についても、「東京書籍」が工夫していると感じた。また、先程、末信委員が言われた、共通教材についても比較した。例えば定番の「スイミー」や「お手紙」である。この教材を第1学年で扱うか第2学年で扱うかの違いが見られた。第1学年で扱う際は、指導者が提示方法等を工夫する必要があると感じた。その他意見はないか。</p>
委員（全員）	ない。
教育長	それでは、選定委員会の答申のとおり、国語は総合的に判断して、「東京書籍」ということで決定してよいか。
委員（全員）	よい。
教育長	国語は、「東京書籍」に決定する。次に、書写について、事務局より提案をお願いする。
事務局	書写の総合所見である。低学年において「しよしゃたいそう」がイラストで示され、児童が実体験を伴いながら、姿勢を意識することができる。各学習過程の視点が示されており、課題解決的な学習を実施するための工夫がされている。書写の歴史等に関する資料等の内容も充実しており、日本の伝統的文化も学ぶことができる。また、硬筆では、手本を中央の位置に配置することで、左利きの児童も書きやすいような工夫がされている。さらに、他学年とのつながりを意図した系統的な内容となっている。以上の理由から、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。また、国語においても「東京書籍」を選定しているため、内容の関連がある「東京書籍」を選定することが望ましいと考える。審議をお願いする。
教育長	事務局の提案について質問、意見があればお願いする。
末信委員	調査研究答申にあったが、左利きの子供に対しての配慮がなされているということに注目した。「東京書籍」が左利きの子供に対して配慮がある。また、「書写のかぎ」というまとめのコーナーがあり、そのまとめがよいと感じた。それからもう一点、鉛筆や筆の持ち方について各者写真を用いて取り上げているが、その中で「光村図書」の写真が気になった。第1学年の教科書の鉛筆の持ち方の写真が、かなり下の方を持

<p>教育長</p>	<p>つ写真が取り上げられている。あのような持ち方でよいのか疑問に思う。他の学年の教科書は、鉛筆や筆の上の方を持っている写真が掲示されている。</p> <p>他に意見はないか。なければ、私の方から気付きを述べる。習字であるから筆や墨に関係することに注目する必要があると考える。「東京書籍」は地元の熊野筆を取り上げている。しかし、硯の上で墨を摺るという挿絵の掲載がない。他の発行者は、子供が硯で墨を摺る挿絵が掲載されている。「東京書籍」は、硯が置いてあり、墨の動かし方について矢印のみの提示である。実際に摺っている写真が掲載してあればよいと思った。それから「光村図書」は、第6学年の教科書の最初に、間違いの字を大きく書いた横断幕が掲載されている。間違えた字が最初にあると、こんな字を書いてもよいのかと勘違いをする児童もいるはずである。意図としては注意喚起で掲載されたのであろうが、正しい字を示した方が適切であるという印象をもった。</p>
<p>立花委員</p>	<p>国語の教科書を「東京書籍」を選定したため、内容の関連という観点からも「東京書籍」がよいのではないかと感じた。</p>
<p>教育長 神本委員</p>	<p>その他、意見はあるか。</p> <p>国語を「東京書籍」で選定したこと、今は左利きの子供が非常に増えていることから、先程、末信委員が言われたように、左利きの児童も書きやすいような工夫がされている「東京書籍」が適切であると考えます。</p>
<p>教育長 委員（全員）</p>	<p>意見を集約すると、総合的に判断して、「東京書籍」に決定してよいか。</p> <p>よい。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、書写は「東京書籍」に決定する。次に、社会について、事務局より提案をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>社会の総合所見である。「社会科の学習の進め方」のページで、「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」という学習の進め方をシンプルに示しており、児童が学び方を理解しやすい。また「学びのてびき」のコーナーを適切に設け、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。本文、資料等、情報が整理されており、分かりやすい。以上の理由から、総合的に判断して「教育出版」が最も適している。審議をお願いします。</p>
<p>教育長 横山委員</p>	<p>事務局の提案について質問、意見があればお願いします。</p> <p>社会科の場合は、3、4、5、6の学年で、それぞれテーマがある。歴史を学ぶとか、地域を学ぶとか、自分達の住んでいる市や県の様子を学ぶなどのテーマがある。小学校、中学年の段階で社会科に対して興味をもたせるためには、導入場面で何に出合わせるかが重要である。例えば、きれいな写真や上手いイラストなどが考えられる。その観点から見ると、「東京書籍」が写真の使い方が上手い。写真がぱっとしないのが「教育出版」であった。「日本文教出版」は説明をするイラストがすごく上手く描かれている。歴史も同様で、絵やイラスト、写真等から、歴史の世界に引き込んでいくことも多分にあると思う。また、歴史で言えば、学習指導要領に示されている必ず取り扱うべき人たちの他にどういう人たちを取り上げているかという観点で見ると、「東京書籍」が非常に幅広く取り上げていた。また、「教育出版」は、「つかむ」、「調</p>

立花委員	<p>べる」、「まとめる」、「つなげる」という学習過程が一貫しており、指導者は指導しやすいと考える。一貫してこの流れで教えていくと、いわゆる社会科の授業にリズムが出来ると考える。社会科の場合には、色々な学習過程はあるが、教える立場から言えば、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「つなげる」という学習過程が非常に効果的であると考える。</p> <p>3者の教科書を比較してみたが、流利的に第3学年から第6学年までスムーズに流れているという点、第3学年「わたしたちのまち」での導入を、方位磁針を使って、自分がどこの位置にいるのかということからスタートとして学習を進めているところが、生活科との関連があり、子供達はつかみやすいという点から、「教育出版」がよいのではないかと考える。</p>
末信委員	<p>第5学年、第6学年が2分割になっているのは、「東京書籍」だけであった。重さのためだけか。他に意図があるのか。</p>
教育長	<p>第5学年は上下巻、第6学年は政治国際編と歴史編の分野別となっている。</p>
横山委員	<p>一方の教科書をやっていて、もう一方の教科書を持って来ていないということになれば、授業を実施しにくいのではないかと考える。いつも2冊持って来るのであれば、軽くするために分ける意味がないのではないかと考える。</p>
末信委員	<p>重さの観点から言えば、紙の強度と質を工夫し、軽くするという配慮はどの発行者も行っているように思うが、開く際に、ページがくっついて開きにくいぐらい薄い発行者もあった。</p>
横山委員	<p>開きやすさという観点では、「教育出版」ではないかと思う。</p>
教育長	<p>まず、学習の流れというのは、先ほどあった「教育出版」にも流れがある。「東京書籍」においても、「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「いかす」という学習過程が明確になっており、児童が学習の流れが掴みやすい、これは、「日本文教出版」においても構成や編集はよく似ている。歴史へのアプローチという観点からすると、イラストの工夫や子供が歴史の世界に入り込む工夫について、「教育出版」もいいものがある。また、歴史は何のために勉強するのかという視点に立って考えた場合、「東京書籍」や「日本文教出版」は、あまり今までの学習と関連させずに始まっているのに対し、「教育出版」は、選挙権の変遷を通して歴史学習の意義が定義付けられるという一つの特徴がある。こういう面では「教育出版」の方が優れているのではないかと思う。導入については、「見る」とか「調べる」、「読み取る」、「表現する」とことについて「日本文教出版」が優れている面もある。また、文字については「教育出版」が読みやすい。社会の大きな要素である資料についてこだわると、先程、横山委員が言われたとおり、資料は「東京書籍」の方が分かりやすい、見やすい、文章や内容に沿った資料となっているので、深めやすく、構造もうまく表現ができていないかと思う。地図的なものも非常に分かりやすい。資料のよさが「東京書籍」にはあり、特に高学年等には適しているのではないかと思う。どの地域が取り上げられているのかという観点で見ると、「東京書籍」は福岡市、宮城県、「教育出版」では横浜市、福岡県、それから「日本文教出版」では姫路市、岡山県といったところを取り上げて、深める学習が展</p>

横山委員	<p>開されている。自然災害などの防災の面から見ると、ほとんど同じような取り上げ方をしている。工業関係、あるいは情報関係にしても同じような扱いをしている。選定する判断根拠となるのが、資料のよさに特徴がある「東京書籍」を選ぶのか、色々な特徴で工夫している「教育出版」を選ぶかということになると考える。</p> <p>「教育出版」には「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「つなげる」と学習過程が示されているが、「東京書籍」においても、言葉は違うが、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」と学習過程が示されている。これも一貫して指導を行うことができる。先程申したとおり、「東京書籍」は写真の使い方やイラストの使い方がすごく上手い。第3学年で最初に地域を学ぶというのがあるが、それも福岡市の児童にとって身近な題材から入り、これが工業や農業に繋がっている。学習に入りやすいというか、なじみやすいというか、勉強しやすいと感じた。</p>
教育長	<p>資料で顕著なのが、第6学年歴史的分野の縄文時代と弥生時代の見開き資料のところである。例えば、授業において二つの時代の生活の様子を比較する場合、開くと両サイドへ縄文時代と弥生時代が掲載されるのが「東京書籍」である。「教育出版」は表と裏になっている。表に縄文時代があり、裏に弥生時代があるので、めくりながら比較しなければならない。資料を比較しやすいという観点からみると、「東京書籍」のほうが優れているのではないかと思う。</p>
末信委員	<p>「東京書籍」は、説明や資料が大変よいという印象をもった。興味付けが上手いのが「東京書籍」であった。「教育出版」は、どちらかという課題発見・解決学習的な傾向が強いのかという印象がある。また、別の観点で見ると、教科書の編集委員が気になった。「東京書籍」は広島県内の方が複数含まれており、学校の現職教諭等も多く含まれているので、現場の状況をかなり意識した編集になっているのではないかという印象を受けた。</p>
教育長	<p>広島のことを扱っているのは「東京書籍」だけである。「教育出版」と「東京書籍」のどちらかを選ぶのは非常に難しい。平和問題を詳しく扱っているという観点からすれば、「東京書籍」に少し工夫があったと思う。広島をクローズアップしているということと、特に子供達による伝承を取り上げているというのが「東京書籍」にはあった。「東京書籍」と「日本文教出版」には広島、長崎、沖縄の写真が掲載されていた。しかし、「教育出版」には長崎の写真が掲載されていない。社会的事象にどのように関心をもたせ、学習したことをどのように発信するかという観点で比較すると違いが見られた。第5学年食糧生産の単元において、「東京書籍」では、給食の献立の産地調べを導入とし、日本の米づくり、農産物の産地、そして地図にまとめるという学習展開である。「教育出版」は、いきなり産地マップが記載されて米作りを学習するといった唐突感がある。「日本文教出版」は、給食の献立から産地マップの作成、食料生産させる人たち、そして米づくりという流れがある。この点に関しては、「東京書籍」と「日本文教出版」に工夫が見られる。</p>
神本委員	<p>教科書展示会の意見書の中に、「東京書籍」の教科書には、安倍首相の写真が入っているという意見があった。このことの捉えが私にはよく分からない。憲法9条の記述</p>

教育長	<p>があったことは確認しているが。</p> <p>このことについては、第6学年の政治国際編の教科書である。新聞記事で首相や大臣のことが扱われている。どのような教材にするかいろいろ工夫もできる。その意見にあるような捉え方も考えることができるし、逆に、政治に関心をもつという捉え方もできる。資料をどう生かしていくかということになるのではないか。「新聞を読もう」という小单元なので、新聞をどう扱うかという一つの方法にはなるのではないか。</p>
横山委員 教育長	<p>これは選挙後の組閣化されたという記事である。別にこれに違和感はない。</p> <p>その他どうか。もう一つ違いを述べる。憲法の扱いというか、そのアプローチをどうしているかという観点でみると、「東京書籍」は、きまりやルールの意義から憲法へのアプローチがされている。「教育出版」は、パラリンピック出場選手の日常生活から見た憲法や法律へのアプローチがされている。「日本文教出版」は、政治及び暮らしの視点から憲法へのアプローチというような迫り方がある。</p>
横山委員	<p>現在、中学校は「東京書籍」を使用している。小中の円滑なつながりという観点から考えると「東京書籍」がよいのではないか。</p>
神本委員	<p>領土問題の点をクローズアップすると、「教育出版」は領土問題の記述が少ない。領土問題の観点から見ると、「東京書籍」の方が記述的によいのではないか。</p>
横山委員	<p>先程、神本委員が言われた領土問題に対して、「教育出版」の記述方法が他者と異なる。他者は吹き出しを用いて視点を明確にしているのに対し、「教育出版」は吹き出しがない。「東京書籍」の方がよいと思う。</p>
教育長 委員（全員）	<p>いろいろ意見が出たが、総合的に判断して「東京書籍」ということでよいか。</p>
教育長	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、社会は「東京書籍」に決定する。次に地図について、事務局より提案をお願いします。</p>
事務局	<p>地図の総合所見である。各地方図とは別に、簡潔な地方図が10ページあり、入門期の児童にとって分かりやすく使いやすい。資料図も、テーマごとに見開きでまとめてあり、簡潔で分かりやすい。また、自然災害の発生地を示すだけでなく、防災への取組のページが充実している。索引も工夫されて、児童にとって使いやすい地図帳である。以上の理由から、総合的に判断して「帝国書院」が最も適している。審議をお願いします。</p>
教育長 末信委員	<p>事務局の提案について、質問、意見があればお願いします。</p> <p>両者とも各地方を示した地図があり、高度を色分けしてある。「帝国書院」は、どのように土地が活用されているのかについての色分けの説明が各ページにある。児童にとって、見やすいのは「帝国書院」であると感じた。「東京書籍」は、北極を真上に置いた、めずらしい地図が掲載されておりおもしろいと思った。</p>
教育長	<p>私も「帝国書院」の方がよいと思っている。初めて地図を手にする第3学年の児童への対応は、両者とも工夫がある。しかし、縮尺、地図の使い方、見方で丁寧にしているのは、やはり「帝国書院」である。とりわけ、160万分の1や、100万分の1と2通りの縮尺の地図が記載され、地図の成り立ちを説明している。また、統計データも</p>

	<p>整理されている。例えば、都道府県の特徴を表や帯グラフにもまとめてある。凡例もページごとにきちんと使い分けられていて見やすい。</p>
教育長	他に意見はないか。
委員（全員）	ない。
教育長	地図は「帝国書院」に決定してよいか。
委員（全員）	よい。
教育長	それでは、地図は「帝国書院」に決定する。次に、算数について、事務局より提案をお願いします。
事務局	<p>算数の総合所見である。問題解決的な学習を充実させるため、「深い学び」としてページを設け児童に考えさせるとともに、全単元末には「算数の目～大切な見方・考え方～」というページで整理している。第4学年の割合の学習では、2つの数量の関係などに着目して捉えさせるために数直線を用いて、基準量を1とみて相対的な大きさで比べ、数量の関係を適切に読み取って判断する力を養うことができる。また、第1学年では、大判の別冊により入門期の指導を充実させている。さらに、「考える力をのばそう」「算数で読み取ろう」「おもしろ問題にチャレンジ」という発展的な内容の掲載により活用力の向上が期待できる。以上の理由から総合的に判断して、「東京書籍」が最も適している。審議をお願いします。</p>
教育長	事務局の提案について質問、意見があればお願いします。
神本委員	<p>私は「東京書籍」がよいと思った。総合所見の中にもあるが、第4学年の「割合」の学習を重点的に見て、基準量を1としてとらえやすかったのは「東京書籍」であった。この示し方は、子供達が学習していく過程で、とても分かりやすい。また、「今日の深い学び」のコーナーについても「東京書籍」は優れていると感じた。図形についても、三角形も円と一緒に示しているという点が、中学校への学びにつながり、面白い導入の仕方をしていると思った。</p>
末信委員	<p>「東京書籍」は、全国学力・学習状況調査で、全国的につまずきが多かった問題を分析して、それに対応した内容があった。それがよい。</p>
教育長	<p>私も「東京書籍」がよいと思う。まず、基本問題、応用問題、発展問題等を見たとき、これまで使っていた「啓林館」は若干問題数が少ないということを感じた。中学校の数学へのつながりを見たときに、文字式の単元では、「東京書籍」「啓林館」「日本文教出版」が分かりやすい。また、「分数÷分数」の考え方を図に示しながら説明することは難しいが、「東京書籍」「教育出版」が「整数÷分数」の既習を生かしながら、解き方を考えていた。それから、先程、神本委員が触れられた、「割合」において、「啓林館」は、図、線分図、数直線と多様な考え方を示しているのに対して、他者は数直線を用いた考えを一貫して取り入れ分かりやすいという状況にあった。「東京書籍」の第1学年の教科書には、別冊があり、これが非常に有効である。数字の練習やブロック操作も丁寧に扱われている。皆さんの意見を踏まえ、総合的に判断すると、「東京書籍」がよいのではないかと。算数は、「東京書籍」に決定してよいか。</p>
委員（全員）	よい。

教育長	<p>それでは、算数は「東京書籍」に決定する。次に、理科について、事務局から提案をお願いする。</p>
事務局	<p>理科の総合所見である。巻頭の見開き2ページに学習の進め方や問題解決の過程が示してあり、分かりやすく、主体的に学習に取り組む工夫がなされている。また、問題に対する予想と計画などの例示が詳細になされており、科学的な言葉や概念を使用して自分の考えを論述する活動につながる学習内容となっている。さらには、他教科での学習を理科で生かす工夫や巻末に付された「観察カード」などの活用による身近な自然と学習内容との関連付けがなされている。以上の理由から、総合的に判断して「啓林館」が最も適している。また、観察・実験についての問題に対する予想と計画などの例示が詳細になされている「東京書籍」を第二に選定する。審議をお願いする。</p>
教育長	<p>事務局の提案について質問、意見があればお願いする。</p>
末信委員	<p>実験において、実験、計画、結果、まとめの手順の示し方について、同じ見開きに実験の結果が示してあれば、計画の工夫や考察といった思考が伴わないことが考えられる。「学校図書」はそのようなページがあった。「啓林館」や「東京書籍」はこの点について配慮されている。課題を発見して、計画、実験をして、参考となる結果が別のページで示されている教科書は「啓林館」と「東京書籍」であったと思う。「教育出版」は、どちらかという、多様な考え方や実験方法が示されており、決まった流れではなく、多様な考えに触れることで、応用力や新たな課題を見つけ出す力を付けることを意識した編集がなされているように感じた。ただし、基礎・基本の定着という観点においては、多少物足りないところがある。</p>
神本委員	<p>私は「啓林館」がよいと思う。振り返り、まとめのノート例において、イラスト等があり、とても分かりやすいという点と、「活用しよう」の基本問題、活用問題、応用問題は、日常生活に関連した内容で非常に問題がよいと思った。第6学年の天体の月の満ち欠けは、非常に分かりにくい、イメージしにくい発行者が多い中、プログラミングとの関連が非常に良かった。</p>
立花委員	<p>私も「啓林館」がよいと思った。用具の使い方がきちんと記述してあること、月の満ち欠けの説明について、非常に分かりやすく記述されている。</p>
横山委員	<p>私も「啓林館」がよいと思う。その理由として、写真とかイラストが非常に分かりやすく効果的に配置されていると感じた。</p>
教育長	<p>私は第一が「東京書籍」、第二が「啓林館」である。「東京書籍」は、生物・物理・化学・地学の全体像を学習する目次の裏で、「なぜ」という疑問、あるいは「予想」から入るような学習展開となっている。また、植物や昆虫など、身近にいる動植物の記載については「東京書籍」が工夫している。種まきであれば、「東京書籍」はひまわり、ほうせんか、ピーマン、オクラ、「啓林館」は、ほうせんか、ひまわり、マリーゴールドを扱っている。花が咲き、実ができるというパターンで非常に分かりやすい構成になっているのが「東京書籍」であった。サナギの扱いについて、「東京書籍」は蝶やカブトムシ、トンボ、バッタ、蟬などを扱っている。「啓林館」は、蝶、蚕を扱っている。蚕は分かりやすいが、児童にとってあまり身近ではないと思う。「東京書籍」</p>

	<p>は、まとめが分かりやすい、考えやすいため、児童が新たな課題をもつことができる。よい単元構成だと思う。また、書く、話す、観察、実験、深めるというような資料が整理されている。最後に、学んだことを振り返る学習も充実している。「学校図書」は、先ほどもあったが、夏の星を詳しく掲載している。他者にはない特徴がある。「種子の発芽の条件」の実験も違いが見られた。「東京書籍」は、実験の3パターンを一度に紹介している。一方、「啓林館」は、一つずつ条件を提示し、実験を行う展開であった。</p>
<p>末信委員</p>	<p>「東京書籍」か「啓林館」のどちらかだと思う。それぞれのよさについてまとめると、「東京書籍」は学習項目が示してあり、問題をつかむ・調べる、観察、実験、まとめ、考察、振り返りを意識してページを意識して、見開きのページを構成している。それから判が大きい。写真や文章、資料が大変見やすい。判が大きくなっても、重くならないような配慮がしてある。巻末の資料、理科の調べ方を身に付けるという点も充実している。「啓林館」は、巻末にある資料室が充実している。問題をつかもう、問題をつかんで予想する、実験する、ページを変えて、結果から考えよう、まとめようと実験の手順もしっかりしている。さらに、もっと知りたいということで、「理科の広場」があり、学習を発展させるという配慮があった。趣意書の中の編集基本方針に共感したのだが、特に問題解決の力を養うということ大きな一つの柱として編集してあるというのが魅力であった。</p>
<p>横山委員</p>	<p>「啓林館」の写真も多少引き伸ばしてあるのかという印象であった。「東京書籍」の写真がきれいである。しかし、字が読みにくい。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、選定委員会からの調査研究答申や皆さんの意見を踏まえ、総合的に判断して「啓林館」ということでよいか。</p>
<p>委員（全員）</p>	<p>よい。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、理科は「啓林館」に決定する。次に生活について、事務局から提案をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>生活の総合所見である。児童に問いかけ、答えを示さずに、疑問や興味をもたせる展開となっており、自分で実際に体験、活動して主体的に学べる構成となっている。また、幼保小の円滑な接続において大切な要素であるスタートカリキュラムも充実しており、1年を通して保護者の関わりを促すものになっている。またA4判の大判で、巻末の資料も分かりやすく充実している。全体として、教科書から学ぶのではなく、教科書をきっかけとして主体的な学びを促すことをねらいとしている。以上の理由から総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。</p>
<p>教育長</p>	<p>事務局の提案について質問、意見があればお願いします。</p>
<p>神本委員</p>	<p>選定委員会では選定されていないが、私は「大日本図書」が絵本のような形で面白いと思った。</p>
<p>末信委員</p>	<p>「東京書籍」の編集方針に大変好感をもった。判が大きいので、内容の余裕があり写真もきれいで児童が興味をもって取り組みやすいと思う。「かつどうべんりてちょう」や「ポケットずかん」も大変充実している。見開きのページごとにテーマが設定</p>

教育長	<p>してあった。「日本文教出版」は、上の教科書の巻頭に、写真が多く掲載されているため、入学した児童が、生活の学習について捉えやすいと思った。また、ページの下の欄に、学習のポイントが示してある。他にも「アレルギーに気を付けよう」や「手を洗おう」など注意書きがあり、丁寧な内容だと思った。付録の資料も充実していた。「ちえとわざのたからばこ」というコーナーに魅力を感じた。</p> <p>私は「東京書籍」がよいと感じた。上の教科書では、四季折々の自然に触れてあること、導入において、気付きを大切にして学習を進めていること、子供の非常によい表情が載せてある。「学校大好き」という単元では、保健室、図書室、校長室などを取り上げ、バランスよく紹介してある。巻末には、先程、末信委員が言われた、「かつどうべんりてちょう」、「ポケットずかん」などがあり、非常に考えられた構成だと思った。「日本文教出版」は、留意点などが細かく取り上げられている。末信委員が言われた「ちえとわざのたからばこ」のコーナーや点字を取り上げている点は特徴である。ただ、ミニトマトの収穫は、全部赤くなって下から収穫していたが、実際は茎元から赤くなる。イラストの工夫が欲しいところである。委員の意見を踏まえ、総合的に判断すると、「東京書籍」がよいのではないか。生活は「東京書籍」で決定してよいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>生活は「東京書籍」に決定する。次に、音楽について、事務局より提案をお願いする。</p>
事務局	<p>音楽の総合所見である。低学年の巻末に打楽器の基礎的な奏法について掲載されている。第4学年以上に大きな写真をふんだんに使ってあったり、著名な芸術家からのメッセージも掲載されたりしており、児童の学習意欲を向上させる工夫が見られる。また、第2学年から部分二部合唱を取り入れたり、全学年に英語の歌が取り扱われたりしており、多様な学習も充実している。さらに、対話的な学びを引き出す「学びナビ」コーナーも工夫されている。以上の理由から、総合的に判断して、「教育出版」が最も適している。審議をお願いする。</p>
教育長	<p>事務局の提案について、質問、意見があればお願いします。</p>
立花委員	<p>「教育出版」がよいと思う。「教育出版」は音を楽しむことを意識していると思う。また、全学年で英語の歌を取り扱っているのもよいと思う。</p>
神本委員	<p>私も「教育出版」がよいと思う。第2学年から部分二部合唱が出てくるのは「教育出版」だけである。</p>
末信委員	<p>「教育出版」で目に付いたのがこの写真である。（「教育出版」の「ふじ山」の写真を提示）歌詞に「かすみのすそをとおくひく」があるが、この写真があれば雰囲気がよく分かる。</p>
教育長	<p>「教育芸術社」は、「音楽で子供、生活、社会が繋がる、子供と子供が繋がる、音楽の和が繋がる」と非常にいいものがあった。きっちりまとめて整理してある。しかし、それが逆に少し窮屈に感じてしまった。指導者からすれば、指導しやすいというような印象を受けた。一方、「教育出版」は、ワクワク感やトータルで学ぶという感じを受けた。基礎・基本がきちんと押さえてあるので、ワクワク感をもち、音楽を好きにな</p>

	<p>ろうという思いを大切にしているのが「教育出版」であると感じた。他に意見はないか。</p>
委員（全員）	<p>ない。</p>
教育長	<p>音楽は「教育出版」に決定してよいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、音楽は「教育出版」に決定する。次に、図画工作について、事務局から提案をお願いする。</p>
事務局	<p>図画工作の総合所見である。目標と振り返りが具体的で分かりやすく明確に示されている。すべてが見開き題材で、1ページ題材はなく、題材数も多い。また、絵、造形遊び、立体、工作、鑑賞のすべてがバランスよく配列されている。以上の理由から、総合的に判断して「日本文教出版」が最も適している。審議をお願いする。</p>
教育長	<p>事務局の提案について質問、意見があればお願いする。</p>
神本委員	<p>私も「日本文教出版」がよいと感じた。その理由として、掲載している子供達の作品数が多い上、想像力を掻き立てる作品がたくさん掲載されているからである。</p>
立花委員	<p>私も「日本文教出版」がよいと思う。お話から想像して描いている子供の作品がよい。また、現在注目されている鈴木康弘さんの作品で、違う視点から、作品を作っていくという芸術家を紹介していてよいと思った。ゲルニカも載っており、鑑賞作品もよいと思った。</p>
横山委員	<p>「日本文教出版」は、目標における振り返りが明確でよい。また、見開きページが見やすいため、児童のやる気が起こってくるような気がする。</p>
教育長	<p>「日本文教出版」は、自分の感じたことや思ったことを自由に制作できるようなものが多いと感じた。「教科書美術館」のコーナーで作品と対話ができる。また、「ひらめきポケット」というコーナーが必ずあり、作品を表現する参考となる。「開隆堂」は、カチッと決められているような感じがした。整った教材があり、完成作品が多く掲載されているため、指導者は使いやすい。こういうのを作ればいとゴールを示しやすい。しかし、図画工作は、もっと自由に伸び伸びと、色々なものを色々な発想でつくるということを認め、共感する、その中に創造性が生まれるということを考えてときには、「日本文教出版」の方がよいと思った。その他、意見はないか。</p>
委員（全員）	<p>ない。</p>
教育長	<p>図画工作は「日本文教出版」に決定してよいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、図画工作は「日本文教出版」に決定する。次に、家庭について、事務局から提案をお願いする。</p>
事務局	<p>家庭の総合所見である。デジタルコンテンツ（「QR」マーク）が57箇所掲載されており、コンテンツを利用して動画等を確認することができる。学習の流れが、「気づく、わかる、できる、生かす、深める」と示してあるとともに、題材の終わりに「振り返ろう」があり、学習のめあてと照らし合わせながら、チェックできるように工夫されている。また、衣食住の題材数が多く、内容が充実している。調理実習における</p>

	切り方の一覧表が裏表紙に掲載されており、実習中にいつでも確認できる。さらに、言語活動が同じ枠や色合いでまとめてあり、簡単なイラストも記載してあるため、学習の意欲を高める効果がある。以上の理由から、「開隆堂」が最も適している。審議をお願いします。
教育長	事務局の提案について、質問や意見ををお願いします。
横山委員	調査研究答申の総合所見にもあった QR マークであるが、デジタルコンテンツが多いことは、やはり魅力であると考えます。
立花委員	教えてもらうのではなく、自分で考えて学習を進めていくという観点でみると、「開隆堂」がよいと思った。版が小さいので置きやすい、高学年なのでこれくらいの大きさでよいと感じた。
神本委員	私は「東京書籍」がよいと思った。「開隆堂」は切り方一覧表が裏表紙には書いてあるのだが、「東京書籍」も見開きページに切り方一覧表がある。丁寧であることと一覧表が見やすいということから、「東京書籍」の方がよいと思った。
教育長	意見が分かれているが、私は、「東京書籍」の方がよいと思う。確かに、「開隆堂」は、QR コードで 100 以上の動画が入っている。見通しをもつことのできる構成、スムーズステップで身近な問題から課題発見する構成になっているチャレンジコーナーもある。今後、取り組んでほしい弁当のことや防災関係も扱われており、非常によくまとまっている。「開隆堂」は何から何まできちっとしてある印象をもった。「東京書籍」は、表紙にもあるが、生活の様々な様子が表現されている。また、「生活を変えるチャンス」というコーナーがあり、自己の生活を自分事として捉えることのできる工夫がある。2 者の違いとして、「深めよう」の学習過程で、実践したことをプレゼンするコーナーが「東京書籍」にはある。活動のあとにどのようにまとめるか、どのように表現するかは大切な視点であると考えます。その他意見はないか。
委員（全員）	ない。
教育長	2 者の意見が出ているが、実習後のまとめが充実していること等から、総合的に判断して、家庭は「東京書籍」としてよいか。
委員（全員）	よい。
教育長	家庭は「東京書籍」に決定する。次に、保健について、事務局から提案をお願いします。
事務局	保健の総合所見である。「つかむ」「考える、調べる」「まとめる、深める」が見開きで配列されているとともに、単元末の振り返りに 1 ページ割いてある。直接書き込むことができる資料が多く、書く活動を充実させている。また、関連する内容が書かれているページを知らせる表記が紙面の端にあり、学習内容を関連させることができる。言語活動に関しても、知識や体験をもとに友達と意見交流することができるよう工夫されている。以上の理由から、総合的に判断して「学研」が最も適している。
教育長	事務局の提案について、質問、意見ををお願いします。
末信委員	「東京書籍」は、「気づく、見つける、調べる、解決する、深める、伝える、まとめる、」という学習過程が明確に示されていた。また、資料もよかった。

教育長	私も、「東京書籍」、「文教社」、「学研」の3者が印象に残り、注目して教科書を見た。「東京書籍」は、「保健は夢を叶える力になる」というフレーズで、一貫して展開されている。末信委員が述べられように、学習の進め方が明確になっている。項目ごとに資料が充実していたり、書き込みの欄があったり、ワークシート的なものが用意されていたり工夫がされていた。「学研」は、「もっと知りたい、調べたい」というフレーズで、一貫して展開されている。また、第5学年の教科書にいじめ問題が取り上げられている。「健康とはどんなことか。健康とどう関係しているのか、健康になるためにはどうすればよいのか。」という問いを示し、オリンピックを取り上げながら、スポーツとの関連で健康について考える学習が仕込まれていた。学習過程については、「つかむ、考える、調べる、まとめる・深める、もっと知りたい、調べたい、振り返るための作業」という項目が示されている。「文教社」は、広島県出身の山縣選手を取り上げて、紹介している。
神本委員	私も「東京書籍」が一番分かりやすいと思った。「ストレスカレンダーを作ろう」という活動があり面白かった。
立花委員	説明があったように、振り返りや単元のバランス構成が評価できる。「学研」もよいと思う。
教育長	「学研」は、第5学年の「心の健康」という単元でスクールカウンセラーやいじめ問題を詳しく扱っている。また、各県の食中毒やエイズ、スマートフォンについても詳しく扱っている。「体の発育・発達」では、色々な立場の体験談を掲載することで、児童が安心して思春期を迎えることができる工夫がある。まとめの場面では、自分事として考えることができる工夫もある。また、直接書き込むことができる資料が多く、考えを書く活動を充実させている。関連する内容が書かれているページを知らせる表記が紙面の端にあり、学習内容を関連させることができるという特徴があった。選定委員会が調査研究答申で「学研」を選定している。「東京書籍」と「学研」の両方、良いところあるが、総合的に判断して「学研」で選定をするということかどうか。
委員（全員）	よい。
教育長	それでは、保健は「学研」に決定する。次に、英語について、事務局から提案をお願いします。
事務局	英語の総合所見である。主語は緑、動詞は紫で色分けがしてあり、視覚的にも分かりやすく工夫されている。4線の間隔は、現在児童が使用している We Can と同様であるため、児童にとって書きやすい。聞く、読む、話す（やり取り）、話す（発表）、書く活動がバランスよく配列されており、「伝え合おう」「たずねたり答えたりしよう」等、双方向の言語活動になるよう工夫されている。以上の理由から、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。審議をお願いします。
教育長	小学校での英語の選定は初めてである。事務局の提案について、質問、意見ををお願いします。
末信委員	「東京書籍」がよい。その理由として、趣意書の編集方針に、先生方の声を大切に作ったとあった。この点については、大いに共感できる。

神本委員	私も「東京書籍」がよいと思う。調査研究報告書の総合所見に加えて、巻末のカードがはさみを使わなくても、手で切ることができるなどの工夫もある。
教育長	私も「東京書籍」がよいと思う。テーマ別に分かりやすく区別されている。それから、別冊があり、単語などのまとめがこれでできるようになっている。また、学習したことを活用できる、まとめの単元が組まれている。「開隆堂」も「三省堂」もまとめの単元はある。第6学年の単元を見ると、多くは身近な生活場面を取り上げているものが多いが、世界に目を向けている単元が「東京書籍」と「開隆堂」にある。コミュニケーションの面から見ると、話すことの〔やりとり〕が充実しているのが「東京書籍」であった。「東京書籍」は2ページの見開きに1回、必ず〔やりとり〕が設定されている。スモールトークが必ずある。一方、「開隆堂」の場合は、伝え合うというところが少なく、書く活動を充実させている。つまり、〔やりとり〕の単元が少ない。「学校図書」は、スモールトークはよく入っている。「教育出版」は2ページに1回ぐらいで、難しい内容を取り扱っていた。〔やりとり〕が少ないのは、「啓林館」と「開隆堂」である。書くことに視点を置いてみると、「東京書籍」は他者に比べ少ない。「開隆堂」は書くことを重視している。「学校図書」はなぞるというような形になっている。少しレベルが高く感じたのが「教育出版」と「学校図書」で、できる子はこちらの方を好むかもしれない。しかし、今回、初めての選定ということで、総合的に見たときには、「東京書籍」がよいのではないかと思う。他に意見はないか。
委員（全員）	ない。
教育長	英語は「東京書籍」に決定してよいか。
委員（全員）	よい。
教育長	それでは、英語は「東京書籍」に決定する。最後に、道徳について、事務局より提案をお願いする。
事務局	道徳の総合所見である。教材の終末において、「考えよう 話し合おう」で発問を示したり、第3学年以上に「学習の道すじ」として学習の見直しを示したりすることによって、児童が主体的に考え、学ぶことができる。また、「道徳ノート」が内容項目ごとに構成されていることによって、児童が自己の成長を実感することができる。以上の理由から、総合的に判断して、「廣あかつき」が最も適している。審議をお願いする。
教育長	事務局の提案について、質問、意見をお願いする。
立花委員	2年前の採択の際、「廣あかつき」の別冊は振り返りで書くことが多いのではないかということに心配した。今回も「廣あかつき」には別冊があるが、書く内容を精選していた。一度使い始めたものなので、これでよいのではないかと思う。教材はしっかりした内容である。
教育長	「廣あかつき」の別冊が、今までより工夫があるということでよいか。
立花委員	よい。
神本委員	私も「廣あかつき」がよいと思う。扱っている教材も力があり、よい作品を載せていると思う。発問の内容もよい。「廣あかつき」を引続き使用すればよいと思う。

横山委員	<p>前回採択を行ったときに、ノートのあるなしということで、議論した。このノートも改良がされているということで、やはり、続けて使うべきであると考えている。</p>
教育長	<p>今、横山委員が述べられたが、前回もこの別冊があるかないかが一つの話題になった。今回も「学校図書」と「日本文教出版」と「廣あかつき」に別冊のノートがある。それぞれ各者とも工夫されているが、「学校図書」と「廣あかつき」が価値項目ごとに、「日本文教出版」は教材の配列どおりになっている。「日本文教出版」は、これまで、2ページ見開きであったのが1ページに精選するとともに、半分は自由欄にするという工夫をしている。「廣あかつき」にしても、学習の記録というところを自由に記述ができるようにし、価値項目ごとに教材を結び付けて整理するよう工夫されている。だから、採択する際の一番の大きな要因は、教材文がどれだけ子供の心を動かし、道徳的価値を深める教材は何なのかということを見たときに、「廣あかつき」が非常に優れている。共通教材を見たときも、「廣あかつき」はたくさん入っているという面も一つの特徴である。読むだけでも一つの大きな感動を与えるものが多い。2年前に採択したものであるのもう少しこれを使ってみてもよいかと思うがどうか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、道徳は「廣あかつき」に決定してもよいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>道徳は、「廣あかつき」に決定する。小学校における教科書の採択は以上である。確認をしておく。教科と発行者名をお願いする。</p>
事務局	<p>国語が「東京書籍」、書写が「東京書籍」、社会が「東京書籍」、地図が「帝国書院」、算数が「東京書籍」、理科が「啓林館」、生活が「東京書籍」、音楽が「教育出版」、図画工作が「日本文教出版」、家庭が「東京書籍」、保健が「学研」、英語が「東京書籍」、道徳が「廣あかつき」である。</p>
教育長	<p>日程第5、議案第43号、「令和2年度使用小学校教科用図書の採択について」採決を行う。ただ今、事務局でまとめて確認をしたが、賛成の委員は挙手をお願いする。</p>
委員	<p>(全員挙手)</p>
教育長	<p>全員賛成なので、日程第5、議案第43号、「令和2年度使用小学校教科用図書の採択について」採決された。</p>